

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】令和2年5月28日(2020.5.28)

【公表番号】特表2017-532977(P2017-532977A)

【公表日】平成29年11月9日(2017.11.9)

【年通号数】公開・登録公報2017-043

【出願番号】特願2017-524000(P2017-524000)

【国際特許分類】

C 1 2 Q 1/68 (2018.01)

【F I】

C 1 2 Q 1/68 A

【誤訳訂正書】

【提出日】令和2年4月7日(2020.4.7)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 4 3

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 4 3】

実施例5：ろ過バッグ遠心分離は、微生物に対する不適切な分離方法である。

包装ボード(10 g)を、ボードサンプルの縁を除いて、滅菌はさみで小片に切断した。得られた小片を、300 mlのクエン酸緩衝液(0.05 M、pH 5)と混合し、Waringブレンダー中でホモジナイズした。ホモジナイズした浸漬湿潤包装ボード(35 ± 0.1 g)の既知の重量測定量を、ろ過バッグを含む50 mlファルコンチューブ(繊維およびインビトロ研究のためのF57ろ過バッグ、Ankom Technology)に移し、遠心ろ過した。理想的には、不溶性マトリックスは、ろ過バッグ中に捕捉され、細菌は、ペレット内に沈降するだろう。それにもかかわらず、qPCRの結果は、培養結果の27%を示し、単独でのろ過バッグ遠心分離は、溶液中に懸濁された包装ボードからの微生物に対する適切な分離方法ではないことを示す。qPCRおよび培養を使用する結果を、図2に示す。